

別 紙

第53回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 4 分科会	演題番号	406
題 名	PM2.5大気自動測定器捕集フィルターによる水溶性成分の把握		
所 属	環境衛生科学研究所		
氏 名	○ 本間信行、井口大輔、美澤克俊、前田友幸、結城茜、金子智英、 宮原鐘一、川嶋久実		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>県では大気汚染防止法に基づく微小粒子状物質（PM2.5）の常時監視として、大気汚染測定局に設置した自動測定器では質量濃度を測定し、また別に、効果的な対策を模索するためPM2.5の詳しい組成（イオン成分、無機元素成分、炭素成分等）や挙動を調べる成分分析調査を実施している。</p> <p>成分分析調査は、機器台数や調査期間等の制約から、地点数や頻度、高濃度日の補足といった点において課題があり、県内の状況を十分には反映出来ていない。一方、大気汚染測定局に設置された自動測定器は、1時間ごとにPM2.5の質量濃度を測定しており、24時間ごとにPM2.5を捕集したフィルターが保持されている。</p> <p>本研究では、このフィルターを利用してPM2.5の主要な成分である水溶性イオンの情報を得る分析方法を検討し、県内のPM2.5の状況をより詳しく得ることを目指した。</p> <p>分析方法の基礎的な確認や成分分析調査との比較を行った結果、捕集フィルターによるイオン成分の分析は、揮発性の高い成分や材料由来の溶出成分等に注意を要するが、成分分析調査との強い相関が確認された。今後は、他の季節における試料の分析や、成分分析調査を実施していない地点への応用と解析を実施していく。</p>		